

論語と算盤



清水建設会長 宮本洋一
みやもと よういち

清水建設は1804(文化元)年の創業で、故郷の越中富山と日光東照宮で大工の修行をした初代清水喜助が江戸・神田鍛冶町で開業したことが始まりである。初代喜助の時から「顧客第一主義」「出入り大工の精神」をモットーとしてきた。そんな当社が洪沢栄一翁の知遇を得たのは明治維新の頃、2代清水喜助が第一国立銀行の建築を手掛けた時代である。3代が早世し、4代がいまだ幼少であったため、1887年に洪沢翁を相談役として迎え、以降60年間にわたり経営指導をいただいた。特に教えられたのが「論語と算盤」である。すなわち、「道理にかなった企業活動によって社会に貢献し、結果として適正な利潤をいただき、社業を発展させる」という考え方である。これが初代喜助以来の「顧客第一主義」「出入り大工の精神」とも合致していたことから、経営の最上位の概念と位置付けてきた。現在は「社是」としている。

洪沢翁は当時、実質的に経営責任者であった原林之助支配人に、「総じて引受ける工事を親切に為し、我家を作る以上に注意して正直に勉強すれば段々と顧客も増え、事業は繁昌して行くものである」と説いた。これは、正直と親切を第一に商売に励むようにとの教えで、当社のものでづくりの原点でもあった。また、完成した建物の修繕や改修といった定用工事を大切に、小さな工事であっても丁寧にお客様の信頼に添えていくことが基本であるとこの指導もいただいた。

お客様との関係は一時的なものではなく、常に真摯な姿勢を心掛け、期待に応え続けていかなければならない。人間としての常識を持ち、礼儀、考え、行動がきちんとしている人が、ちゃんとしたものをつくり、お客様に満足いただけて初めてお金をいただける。こうした「誠実なものでづくり」は、「論語と算盤」に通底するものであり、その積み重ねで信頼と信用を得ることができ、創業から218年たった今も歴史を紡ぐことができているのだろう。

今後もそうあり続けられるよう、2008年に策定したコーポレートメッセージ「子どもたちに誇れるしごとを。」には、誠実さと強い責任感を持ちながら、良い仕事をし、次の時代に財産となるものを残していくという想いを込めた。未来志向を持ちつつ、不変の基本理念・経営姿勢として「論語と算盤」を大切に、そして、次世代にしっかりと引き継いでいきたいと思う。